アスベスト

企業責任断罪求める

最高裁大法廷で意見を陳述

報道関係者が集まる中を入廷する原告、弁護団

2月25日、最高裁判所大法廷で建設アスベスト訴訟東京第1陣の弁論が行なわれました。この日は、原告の宮島和男さん（豊島）と遺族原告の大坂春子さん（埼玉）が苛酷な闘病生活、昨年12月の最高裁決定によって国の責任が確定したことでの喜び、そして建材企業の責任を断罪する判決を切望することなどを意見陳述し、佃俊彦東京弁護団事務局長らがこの訴訟はすべての建設アスベスト被害者の救済をめざしたものであり、建材企業の注意義務違反と共同不法行為について統一的判断を求めると弁論しました。

午後1時過ぎから、最高裁正門前で原告、弁護団の送り出し集会を開き、傍聴できなかった参加者は星陵会館へ移動し、報告集会にのぞみました。集会では宮島さん、大坂さんの陳述書が代読され、法廷内と思いが共有されました。森孝博弁護士は京都、大阪の最高裁上告決定を踏まえての訴訟での到達を説明し、この好機をつかむためにもう一回りの奮闘を呼び掛けました。最後に清水謙一全国連絡会事務局長が行動提起の中で、全面解決に向け与党プロジェクトチームが動き出し、3月には原告、弁護団らにヒアリングがあることなどを報告しながら、議員要請行動を強めること、東京では3月の院内シンポジウムを成功させることなどを訴えました。

傍聴で最高裁大法廷に入った関口浩助さん（品川）は「大法廷の威容に感心しました。宮島さん、大坂さんの陳述は心に響く内容でした」などと話していました。

全面解決へ政治が動く

省庁も出席し与党PTに説明

与党PTとの懇談会。奥で起立しているのが野田座長

国会内での野党合同ヒアリング

12月14日の最高裁決定を受けて、建設アスベスト被害者救済の解決に向け、政治の舞台では大きな動きが始まっています。

3月3日には、国会議員会館で与党プロジェクトチーム（以下、PT）への説明を建設アスベスト訴訟全国連絡会で行ないました。弁護団からは、東京弁護団の小野寺利孝弁護団長、佃俊彦事務局長、須納瀬学事務局次長、水口洋介事務局次長の他神奈川、大阪、京都から、原告は宮島和男さん（豊島）、大坂春子さん（埼玉）、そして清水謙一全国連絡会事務局長が出席しました。

冒頭、PTの野田毅座長（自民）が「12月23日の田村厚労大臣の謝罪、与党とも相談して協議をしていくという意向があった。被害者の皆様は高齢の方も多い。本日は関係省庁と共に皆様の思いや要望をしっかりと受け止め、全面解決に向けて検討を進めていきたい」と挨拶がありました。

メーカー拠出へ データ求める

3月12日、国会内第4議員控室で2回目の野党合同ヒアリングが行なわれました。

尾辻かな子衆議院議員（立民）が司会を務め、原口一博国対委員長代行（衆・立民）、穀田恵二国対委員長（衆・共産）らが被害者救済に全力で取り組むと挨拶。宮島和男さんら原告の訴えの後、水口洋介弁護士が、最高裁決定が出されての全国14事件の早期和解、補償基金制度の創設、最高裁判決前に解決に向けた方針を政治の力で決定する、という3点を求めました。

これを受け、尾辻議員が厚労、経産、国交の関係各省に基金創設の検討状況、基金へのメーカーから拠出の根拠となるデータの有無を求め、各省の回答に対して参加議員から強い要望が出されました。

監視社会強化につながる デジタル法を廃案に

3月5日、参議院議員会館で、デジタル改革関連法案反対の院内集会が行なわれ、20団体62人が参加しました。主催は同法案反対連絡会。

開会あいさつで小畑雅子全労連議長は「デジタル化は時代の流れであるが、個人情報の一括管理による民間ビジネスへの流用や監視社会の強化、デジタル格差拡大が懸念される。多くの問題を含む6法案に反対し廃案にしよう」と話しました。

続いて、黒田充自治体情報政策研究所代表が「デジタル改革法案の問題点とマイナンバー制度」と題して講演。黒田さんは、菅首相はデジタル化を政権の最重要課題としているが、実際はそれに知見も興味もなく平井、河野特命担当大臣に丸投げという実態は過去の発言から明らか。法案は9月のデジタル庁発足への帳尻合わせで拙速、非民主的なもの。デジタル庁は全省庁・自治体の上に君臨し強権を持つ行政機関。マイナンバーカードの利用拡大を推進する、など問題点をあげ、法案は国民をサービスの受け手としか見ず、主権者という観点がない、つまり「国民は口を開けて待っとけ」というようなものと厳しく批判しました。

発言する佐藤副委員長

参加者からの発言で、佐藤豊東京土建副委員長は、東京土建国保の保険証や建設キャリアアップシステムカードでの関連をあげ、多くの団体と力を合わせて廃案をめざすと述べました。また、塩川鉄也（共産）、大河原雅子（立民）議員が連帯の挨拶をしました。

青年部

仲間救う活動を

64回大会WEBで開催

新役員でガンバロー。マイクを持ちリードするのは山口新副部長

東京土建青年部は2月28日、第64回青年部定期大会をけんせつプラザ東京及び各支部からWEBで32支部の代議員と来賓など100人が参加しました。

新年度は、「原点回帰・限界突破」をテーマに、中期3カ年計画を達成し、「仲間を救う」取り組みを未加入者まで広げることなどを提案しました。また、目黒支部から「仲間のつながり絶やさず、今できることを取り組む」、府中国立支部から「どのように活動が盛んになったのか」の経験報告がありました。

五本木部長は「退任する役員の思いを引き継ぎ、全都の仲間と一丸になって仲間づくりと要求実現で青年部活動を盛り上げていこう」とあいさつし閉会しました。

新年度役員は次の皆さんです。部長・五本木宏晃（西多摩）。副部長・新島秀成（練馬）、佐藤聖峻（清瀬久留米）、山口湧也（目黒）。書記長・栄大翔（調布）。書記次長・三宅修平（杉並）。

狛江

支部の基盤作る

豊田元委員長が逝去

豊田さん

【狛江支部発】狛江支部の元執行委員長の豊田恭さんが2月18日に逝去されました。享年85歳。

豊田さんは、1964年に組合に加入し、分会役員などを経て1976年から1985年まで10年間にわたり支部執行委員長を務められ、この間、狛江支部の組織人員を倍以上の人数に押し上げるなど、支部創成期の基盤を作るのに尽力されました。本部でも常任中央執行委員を務め、青年対策を担当し、若い役員や書記を育成するなど、力を発揮しました。

委員長退任後も、分会財政部長や地域での大衆運動なども精力的に行ない、80歳を超えてからも分会四役の一角を担っていましたが、現役役員のまましくなられました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。